愛媛新聞社社長賞　壁新聞部門
「毛利玄得新聞」
今治市立吉海小学校　第６学年　矢野　天晴

毛利玄得新聞　令和6年　夏休み特別号

毛利玄得新聞

島四国とは

島四国とは、現在の愛媛県今治市大島にある八十八ヶ所のことです。本住村に生まれた毛利玄得は、びんぼうがゆえに、貧しい家業の医者へと転業しました。医業にはそれほど興味はなかったが、途中で山道をふり捨てて、島巡りを思いつきました。あげく、四国八十八ヶ所にならぶ、そっくりの霊場を設けて、世の人々を救うべく考えました。当時の津倉浦（今の宮窪）の庄屋、和田重太郎繁金（のちの明治初期の村長）と相談した。すると、この計画に大いに賛同し、自費の他、人々を安らかにする平和な世の中をつくりたいと念じ、互いに協力することを誓い合った。玄得は四国八十八ヶ所の霊場を何度も巡拝した。

霊場への道路や土地の風土、お寺の様子に関心が深かった。三大は、遍路の苦難を身をもって知り、四年（八〇七）五月二十日、五里七十三町（約六十三km）の道のりを、十日間で巡拝した。

お接待の様子

若数は言葉に及んだ。ところが、よく、今治一帯は他国の巡礼者のにぎわいの間がもれることもあるとも思われる。毛利玄得は、巡礼者の苦難を救うべく、東奔西走、民衆に乗りきれ、多くの人々を取りこんだ。この事件後、島四国は廃止となった。しかし、毎年、春になると、多くの巡礼者が訪れ、その数は年々増えていった。

数年後、夏の三日間、御寺派の寺山ひ、ある仁和寺より、遍路八十八ヶ所霊場を定める許可が降りた。また、仁和寺より、菊の紋章を使った札所もあるのである。

毛利玄得さんの一生

明和七年（一七七〇）
本庄村（現吉海町）の医者毛利文領の三男として出生。
幼児期より仏門に入り修業を積む。
兄の玄淳が三原に出たため還俗して医業を継ぐ。
文化四年（八〇七）
四月日島四国八十八ヶ所の霊場を開く。
二月　毛利玄得、今治藩庁の心意に触れ、家族とともに名村へ配流される。
文化五年（八〇八）
四月　流罪を解かれ、本庄村へ帰村。
天保十五年（一八四四）
七月十日、七四歳で逝去。

※還俗（げんぞく）：僧侶になった者が俗人に戻る事

札所のなまえ

1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.

島四国お遍路マップ

お遍路市

遍路さんの作品２

毛利玄得家伝来の品々

弘法様の絵

弘法様の絵

弘法様の絵

お遍路バスの時刻表

お遍路バスの時刻表

遍路市

昔、遍路さんは、二十日ごとに、二十日に開かれる遍路市の縁日には、弘法様から白い目なしに、寄宿、宿泊、食事、お接待、お遍路さんの、お接待、お遍路さんの、お接待、お遍路さんの